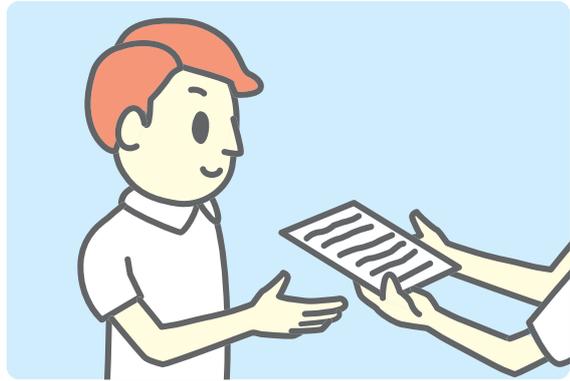


1 献血受付



献血申込者に対する手引き「お願い」を熟読し、理解した上で、献血申込書に記入します。日本赤十字社では、本人確認を実施しておりますので、身分証明書などの提示をお願いします。

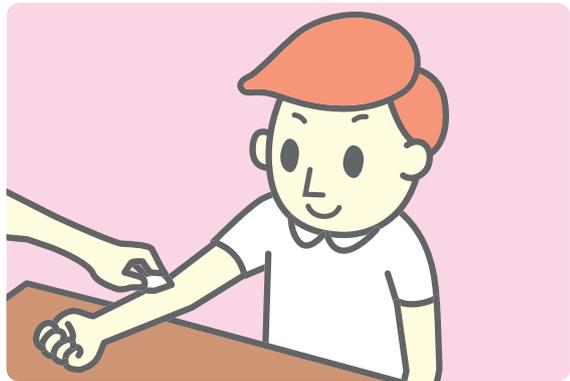
献血申込書に記入した個人情報（住所氏名など）は、厳重に管理され、外部に流出する恐れはありません。

2 問診票の記入



輸血を受ける患者さんに安全な血液を届けるため、また、自分自身が安全に献血をするため、問診票の質問に正確に回答してください。

3 血液比重等の測定、血液型事前判定



貧血の心配がないか、血液比重または血色素（ヘモグロビン）量の測定と血液型の事前判定を行います。成分献血の場合は、血小板数の測定も行います。

採血する際には、細菌などの混入がないように、針を刺す部分の皮膚を厳重に消毒します。今までにヨード過敏症といわれたり、ヨードによるアレルギー症状が起ったことがある場合は、申し出により、消毒液が変更されます。

問診および血圧測定



記入した問診票に基づき、問診と血圧測定を行います。問診内容のプライバシーは厳守されるので正確に答えてください。



4

献血

(成分献血・400ml・200ml)



採血ベッドに横になり採血を行います。採血針を刺したときの痛みはすぐに和らぎますが、痛みが続いたり、指先まで響くような強い痛みがあれば、医師や看護師にお知らせください。

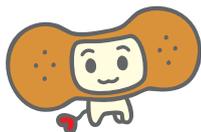
使用される採血針や献血バッグは一人ひとり新しい物を使用しています。

5

休憩

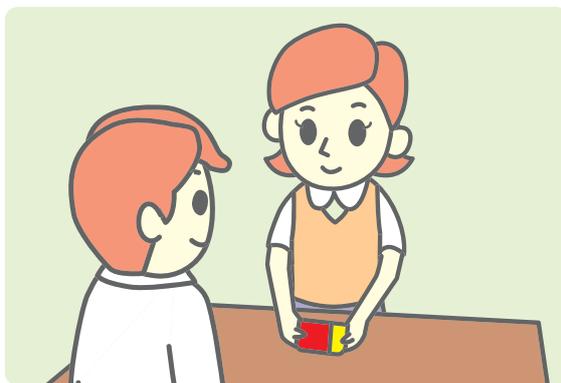


採血後には、休憩場所で十分に水分をとり、休憩してください。



6

献血カードの受取り



献血カードを受け取ります。今後の献血記録になりますので、大切に保管してください。



献血後の注意



献血の後、気分が悪くなったり、針を刺した場所に痛み、しびれが残る場合には、すぐに血液センターに連絡してください。
また、次ページの献血後の注意事項をよく読み、記載事項に注意してください。

HIV(エイズの原因となるウイルス)の感染の恐れがあるが、献血してしまった場合には、採血後に渡されるチラシに従って、献血当日に血液センターに連絡してください。(フライバシーは厳守されます。)